

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成29年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機 関 名	豊橋技術科学大学	整理番号	R03
プログラム名称	超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成		
プログラム責任者	井上 光輝	プログラムコーディネーター	中内 茂樹
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画は総じて順調に遂行されている。グローバルサマースクール、脳科学インターンシップ、博士後期課程実務訓練等の様々な取組が有効に機能している。 ・これらの取組により、優秀で意欲のある学生が育っている。また、本プログラムの目指すブレイン情報アーキテクトとは何かということに関する理解も学生の間で深まりつつある。それぞれが多様な進路を描いていることも評価できる。 ・支援期間終了後、本プログラムを発展継続させる方策が大学側で真剣に検討されており、評価できる。 ・ブレイン情報アーキテクトを養成する上で、それらの基礎となる学問（脳科学系、情報エレクトロニクス系、大規模神経情報処理技術等）の教育は十分になされている。それらをつなぎ、融合させるために、国内外での実務訓練等が用意されており、機能している。しかしながら、どういう実務訓練をすれば融合が進むのか、どこまでこなせばブレイン情報アーキテクトと言えるのかなどの点でまだ不明確な面が残されており、今後これをより明確にすることが望まれる。 ・中間評価で指摘した点（女性や留学生等の多様な学生の受け入れ）については、努力されているが、現時点ではまだ実っていない。今後より一層の努力が望まれる。 ・本プログラムに参加する学生の負荷が過大になっていないか懸念されたが、学生からはネガティブな意見はほとんどなく、むしろ意欲を高める方向に働いていることが現地視察で分かった。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上述したように、ブレイン情報アーキテクトとは何かをよりはっきりさせるために、それらを養成するための実務訓練の内容、修了条件等をより明確化することが望まれる。 ・本プログラムへの応募者が減少傾向にある。この状況の背景や原因を分析するとともに、対応策を考えていただきたい。 ・上述したように、学生の多様性が依然として低い。留学生や社会人の受け入れなどの工夫をしていただきたい。そのための国内外に向けた広報活動、啓蒙活動を積極的に取り組んでもらいたい。 ・本プログラムに参加している学生からの声を正確に拾い上げる仕組みと、それに基づく支援の具体的な方策が望まれる。 			